

スプレー菊



スプレー菊の収穫は年3回



一つの茎に8輪~10輪の花を咲かすスプレー菊



輝北地区のスプレー菊栽培の拠点施設となっている輝北町農業公社

スプレー菊は、1940年代にアメリカで生まれ、1970年代にオランダから日本に導入。その後、日本の気候・風土にあった品種に改良され、現在に至っています。日本の菊に比べ成長が早く、白や黄色、赤、オレンジ、クリーム色など色彩が豊かで、一本の茎に8輪~10輪の小さな花を咲かせます。

鹿屋市では、輝北地区や串良地区を中心に、39戸の農家が、約6haのビニールハウスで栽培しており、県内有数の産地として有名です。

また、旧輝北町では平成10年にJAそお鹿児島との共同出資で輝北町農業公社を設

インタビュー



農業の代わりに熱水で消毒

脇田 徹さん(46歳)
輝北町諏訪原

就農して8年。家族4人でスプレー菊を栽培しています。輝北の準高冷地の気候を活かして年3回収穫できるため、休みはほとんど取れないですが、たくさん収穫できることはうれしいことです。

現在、環境に優しい栽培に取り組んでおり、農業の代わりに熱水で土壌消毒を行っています。100度近い熱水を注入することで、土壌病害虫の防除ができるほか、花の品質も向上しています。農業と違って手間はかかりますが、収穫した花のできを見たときの喜びは、ひとしおですね。

立。平成12年度からエタイン者やリターナー者を研修生として受け入れ、スプレー菊の栽培技術や就農後の農業経営などを指導して新規就農者を育成するとともに、定住者の促進を図っています。

こうした取組みにより、これまでに15人がスプレー菊農家として新規就農しており、輝北地区は市内の約8割を出荷するスプレー菊の産地となっています。

【問い合わせ】

市農政課

0994-311117

データ

栽培面積(a)		出荷量(千本)	
指宿市	1,900	鹿屋市	6,170
鹿屋市	1,600	指宿市	6,050
曾於市	1,050	曾於市	3,820

平成17年実績 農林水産統計資料より